

# 教科別分科会

## 11. 日本語教育分科会

### ◎共同研究者、共同討議者紹介

共同研究者：嶺岸 玲子さん

(盛岡大学文学部日本文学科)

清田 徹さん(高教組元組合員)

共同討議者：藤倉 琢也さん(大槌高校)

### ◎今年の討議の柱

- ①アクティブラーニングを通して身につけられる力とは
- ②時代に対応する活きた国語力とは
- ③文学や詩歌・古典を教える／学ぶ意義とは
- ④観点別評価をどうとらえるか

### ◎分科会アピール

今年度は、「アクティブラーニング」と「観点別評価」を中心的な話題としてとりあげ、各学校現場において問題となっている様々な事象について議論できればと考えております。また、国語教育を批判するときによく言われる、「文学や古典を勉強して何の意味があるのか」や「そもそも小説の問題で一つ答えが決まるなんておかしいじゃないか」というステレオタイプの言説についても話題の中に絡められればと思っております。

時代がめまぐるしく変化し、世代が移り変わっていく中で、国語教育もまた変化していくのは自然な流れです。ただ、その変化を創り出していく主体は、当然ながら現場であるべきですし、現にそうなっているはずですが。そのためにも本教研を、「行政によって創り出された流れ」を「現場の視点から問い直す場」としていきたく願っております。多様な学校、多様な地域からのご参加をお待ちしております。

また、もちろん上記の話題に関わらず参加者から提起された話題を積極的にとりあげていきますので、どうかお気軽にご参加ください！今まで「県教研まではいいかな・・・」と考えておられた方も、是非ご検討ください。推進委員一同、久しぶりの再会、また、新たな出会いを心よりお待ちしております。

### ◎推進委員長

山中 基雅(花巻南高校)

## 12. 社会科教育分科会

### ◎共同研究者、共同討議者紹介

共同研究者：中島 一さん

(歴史教育者協議会)

### ◎今年の討議の柱

- ①「楽しい」「わかる」「考える」授業をどのように実践したか。
- ②地域に根ざした教材の作成や実践をどのようにすすめたか。
- ③社会科教育を通して21世紀の現代における、あるべき歴史認識・社会認識を育て、将来の展望をどのようにひらくか。
- ④現在の危機的な政治・社会状況における社会科教育の果たすべき意義

### ◎分科会アピール

組合の教研という堅苦しく考えている組合員の方が多と思うが、社会科分科会は「来る者は拒まず、去る者は追わず」で、気兼ねなく、ざっくばらんに普通の授業のこと、今の国や政治のこと、その他、歴史や地理や経済や地域のことなど、思う存分語り合える場でありたいと考えています。特に今年度は憲法改正問題や歴史認識の問題や今後の社会科教育のあり方等をテーマとし、右も左も関係なく自由な話し合いの場を設定して、討議を深めたいと考えています。皆さんの多数の参加を心待ちしています。

### ◎推進委員長

原田 一男(不来方高校)

